

### 第3部 トラック競技 第170条 リレー競走

1.  $4 \times 100\text{m}$ ,  $4 \times 200\text{m}$ ,  $100\text{m}-200\text{m}-300\text{m}-400\text{m}$ （メドレーリレー）,  $4 \times 400\text{m}$ ,  $4 \times 800\text{m}$ ,  $1200\text{m}-400\text{m}-800\text{m}-1600\text{m}$ （ディスタンスメドレーリレー）,  $4 \times 1500\text{m}$  が標準の距離である。
6. (a) 競技場で行われるリレー競技ではバトンを使用しなければならない、バトンは競技中手でもち運ばなければならない。  
(c) もしバトンを落した場合、落とした競技者がバトンを拾って継続しなければならない。この場合、競技者は距離が短くならないことを条件にバトンを拾うために自分のレーンから離れてもよい。加えて、そのような状況でバトンを落としたとき、バトンが横や進行方向（フィニッシュラインの先も含む）に転がり、拾い上げた後、競技者はバトンを落とした地点に戻ってレースを再開しなければならない。上記の手続きが適正になされ、他の競技者を妨害しない限りは、バトンを落としても失格とはならない。競技者がこの規則に従わなければ、そのチームは失格となる。
7. バトンは、テイク・オーバー・ゾーン内で受け渡されなければならない。バトンのパスは、受け取る競技者にバトンが触れた時点に始まり、受け取る競技者の手の中に完全に渡り、唯一のバトン保持者となった瞬間に成立する。それはあくまでもテイク・オーバー・ゾーン内でのバトンの位置のみが決定的なものであり、競技者の身体的位置ではない。競技者がこの規則に従わなければ、そのチームは失格となる。
8. バトンを受取る競技者が唯一のバトン保持者となる瞬間まで、バトンを渡す競技者に対して第163条3が適用される。受渡し後は、バトンを受取った競技者に対して適用される。バトンを受ける前または渡した後、競技者は他の競技者への妨害を避けるため、走路が空くまで自分のレーンまたはその位置（ゾーン）にとどまるべきである。第163条3、第163条4は適用されない。但し、自分のレーンの外を走ったり、外で立ち止まったりすることによって、バトンを渡し終えた競技者が、自分の位置やレーンの外を走ることによって故意に他のチームの競技者を妨害したときは、第163条2が適用される。
9. レース中、競技者が他チームのバトンを使ったり拾い上げた場合、そのチームは失格となる。相手チームは、有利にならない限り失格とはならない。
16.  $4 \times 800\text{m}$  リレーでは、以下のいずれかの方法で走ることができる。
  - (a) 第1走者は第163条5で述べたブレイクラインの手前端までレーンで走り、その後レーンを離れることができる（レーンで一つの曲走路を走る）。
  - (b) レーンを用いない。
- 20.（前略）審判員の指示に従い、前走者が第2曲走路入り口を通過した順序で、内側より並び待機する。その後、待機している走者は、この順序を維持しなくてはならず、バトンを受け取るまで入れ替わることは認められない。違反した場合は、そのチームを失格とする。
- 21.（前略）どのリレー競走においても、レーンが使用されていない場合は、次走者は、他の走者の進行をじゃまするために妨害したり押しのけたりしないならば、走って来るチーム走者が近づくにつれてトラックの内側に移動できる。